

韓国語の助詞に関する教育（2）

The Education on Postpositions in Korean Language (2)

権 英 秀

KWON Young-Su

This study has discussed the non-corresponding grammatical forms of postpositions (TO, MO, KARA, MADE, YORI, NO) between Japanese and Korean in more details, based on results researched by KWON(2018b, 2020) : In Japanese, one grammatical form often expresses various meanings compared to in Korean. And since Japanese and Korean are similar in a certain way, only the corresponding grammatical forms in both languages are explained in some grammar texts or on educating of Korean language. And postpositions (WA, GA, WO, DE, NI) have been already considered at KWON(2022).

キーワード：日本語、韓国語、助詞（と、も、から、まで、より、の）

1. はじめに

日本人韓国語学習者は日本語を専門に勉強しておらず、韓国人日本語学習者のように日本語の文法を体系的に習ったり、活用したりせずに日常生活の中で自然に覚えている。また、現在の外国語の教育、特に韓国語の教育（テキストを含め）において、日本語と韓国語はさまざまな面（語彙、文法、語順など）で非常に似ていることから、日本語の文法に対応する韓国語の文法についての説明のみが行われている。このような教育は、日本人韓国語学習者に「日本語と韓国語は同じ言語であり、日本語は平仮名・片仮名・漢字、韓国語はハングルで、ただ表す手段（文字）だけが異なるもの」と認識させる恐れがある。しかし、日本語と韓国語はそもそも異なる言語であるため、両言語には文法同士で対応するものもあれば、対応しないものも多々ある。したがって、両言語の文法が対応できない場合にどのように韓国語で表現すべきか、または習った韓国語の文法を活用すべかについて学習する必要がある。

著者（2018b、2020）は、上記の問題点を認識して研究を行い、「①日本語の文法を短絡的に韓国語の文法に対応させており、日本語の文法の意味による使い分けや、韓国語に対応できない文法の説明などが不十分である。②日本語は韓国語に比べて一つの文法形態がさまざまな意味を表す場合が多い。③日本語は一つの文法形態にさまざまな品詞（「動詞・形容詞・形容動詞・名詞」）と組み合わせることができる。」という結果が得られた。そして、筆者（2018b、2020）

の研究結果を踏まえて、2022年に韓国語の助詞「は、が、を、で、に」に関する教育について研究を行った。

本研究は2022年の研究に続き、韓国語の助詞「と、も、から、まで、より、の」について日本人韓国語学習者¹の誤用や質問を参考に考察する。

2. 助詞「と」について

2.1 「と」の意味

韓国語に比べて日本語の特徴は一つの文法形態がさまざまな意味を持ち、包括かつ広範囲で使われる（権 2020）。ここでは「と」を中心に考察してみる。

表1) 「と」の意味

①羅列	私 <u>と</u> 弟は学生です。
②仮定・条件	春になると <u>と</u> 暖かくなります。
③引用	彼が来ると <u>と</u> 言いました。
④副詞	このお金はいずれ必要 <u>と</u> なります。

表1のように「と」という日本語の文法形態がさまざまな意味で使われていることが分かる。①の「と」は名詞と名詞を羅列する助詞である。ただし、文章と文章を羅列する場合は使うことができないことに注意しなければならない。そして、②の「と」は春になった場合暖かくなるという仮定・条件の意味で使われ、③の場合は第3者の言った言葉を引用する表現である。そして④の場合は「必要に」という副詞の役割をする。よって、①～④のようにさまざまな日本語の「と」の意味に対して韓国語で表現する場合はそれぞれの文法形態で使い分けなければならない。

例1)

①私と弟は学生です。 (名詞と名詞：羅列)

⇒저와² 남동생은 학생입니다.

②春になるとと暖かくなるでしょう。 (仮定、条件など)

⇒봄이 되면 따뜻해질 거예요.

③彼が来るとと言いました。 (引用)

⇒그가 온다고 했어요.

④このお金はいずれ必要となります。 (必要に：副詞)

⇒이 돈은 언젠가 필요하ㄹ 될 거예요.

日本語の「と」は上記のように4つの意味に分類することができ、韓国語にはそれぞれの意味に対応する文法形態がある³。そのため、日本人韓国語学習者がすべての意味を学習しない限り、習っていない「と」を上手に韓国語で表すことができない。しかし、初級レベルの日本人韓国語学習者は習っておらず意味が異なる日本語の「と」を、習った韓国語の「と」を用いて韓国語で表そうとすることが多く見られる。また、韓国語テキストによっては表1のようにすべての「と」の意味が説明されていない場合もある。したがって、韓国語の教育者は「と」の教授法を工夫する必要性があり、日本人韓国語学習者も「と」の意味はもちろん、使い分け方や文法形態を覚えなければならない。

2.2 仮定・条件の意味を表す「と」

韓国語のテキストや教育において、仮定表現を表す際に使う「と、たら、れば、なら」は韓国語で「면/으면」に対応すると説明される。

例2)

①明日学校に行くと (行ったら、行けば、、、等)、久しぶりに友達に会えます。

②昨日学校に行くと (行ったら、行けば、、、等)、久しぶりに友達に会えました。

日本語の「と、たら、れば、なら」を使った仮定表現を表す際は韓国語で「면/으면」を用いるという文法の説明を受けた日本人韓国語学習者が例2を韓国語で書く場合、①と②の「行くと、行ったら、行けば」を韓国語の「가면」と多く答えると思う。なぜなら、「と」の分類のように(表1)、名詞と名詞の「羅列」ではなく、「引用」や「副詞」の意味で使われてもいないことから、例2の①と②における「と、たら、れば」は「仮定(表現)」の意味として解釈してしまうのである。

仮定とは不確定なことを仮に定めることであり、実際は物事が起きていないのである。そのため、仮定表現は現在起きていない物事について「と、れば、たら、なら」で事実に関係なく、一時的にこうであろうと想定する表現である。したがって、例2の①の場合、明日のことを現在の時点で語っており、「学校に行く」ことは実際に起きていないことから、「行くと、行ったら、行けば」は仮定表現として使われていることが分かる。半面、例2の②の場合は、昨日すでに「学校に行く」ことを行っており、物事が行われていることから、「行くと、行ったら、行けば」は仮定表現ではないことが分かる。

さまざまな韓国語の学習経験のない日本人韓国語学習者は習った文法だけを使わなければな

らないと思い、習った文法だけで日本語を韓国語にすべて対応させることができると考えがちである。しかし、繰り返しになるが、語学教育というのは、異なる言語同士で 100%ではないが⁴、主に意味が似ており、似ている場面で使えそうな文法を両言語における文法対応（関係）として捉えて教育を行っているのである。したがって、日本語と韓国語は根本的に異なる言語でありながら、対応する文法もあれば、対応しない文法も多くあるため、初級レベルの日本語韓国語学習者には対応する文法だけではなく、対応しない文法も、「例外や注意点、または一つの新たな文法」として説明や練習を行うべきだと考える（権 2018b）。

よって、例2の②は仮定表現ではなく、表1の「と」のように両言語が対応できる場合でもないため、以下のように韓国語で表すことができる。

仮定表現 (○)	①明日学校に行く <u>と</u> （行ったら、行けば等）、久しぶりに友達に会えます。 내일 학교에 <u>가면</u> 오랜만에 친구를 만날 수 있습니다.
仮定表現 (×)	②昨日学校に行く <u>と</u> （行ったら、行けば等）、久しぶりに友達に会えました。 어제 학교에 <u>가서/갔더니/갔는데…等</u> ⁵ 오랜만에 친구를 만날 수 있었습니다.

2.3 引用表現を表す際の「と」

権（2020）は、日本語は韓国語に比べて一つの文法形態がさまざまな意味を表す場合が多いため、日本語の各意味に対応する韓国語の文法形態がある場合は、日本語の文法の意味に応じて韓国語の文法形態を使い分けなければならないと述べている。

表2) 引用表現の種類

直接引用	A：今夜私が料理をします。 B：ありがとうございます。 ↓ B：Aが“今夜私が料理をします”と言いました。 C：そうですか。
間接引用	A：今夜私が料理をします。 B：ありがとうございます。 ↓ B：今夜友達（A）が料理してくれると言ったので、早く帰ります。 C：そうですか。

引用表現は表2のように2種類ある。直接引用とは第三者（A）の表現・話など（“今夜私が

料理をします”)を相手(C)にそのまま伝える・引用することを言う。そして、普段日常会話で多く使われる間接引用は第3者(A)の表現・話など(“今夜私が料理をします”)を相手(C)にそのまま伝えたり、引用したりしないことを言う。即ち、「今夜私が料理をします」という表現を「料理してくれる」と変えて、第3者(A)の意図や考え・思いだけを伝えたり・引用したりする。

そして、権(2020)は、日本語は一つの文法形態にさまざまな品詞(「動詞・形容詞・形容動詞・名詞」と組み合わせることができるが、韓国語の各文法は組み合わせられる品詞が決まっているものが多いため、「文法」と「文法の前に来る単語の品詞⁶」との結束関係を理解しなければならないと述べている。

したがって、引用表現においても、日本語は直接引用と間接引用の場合、「と」だけを持って表すことができる反面、韓国語の場合は各引用表現に文法形態の使い分けをしなければならない。なお、韓国語では引用の部分(表現)が「名詞」か「名詞ではない動詞・形容詞」であるかによって引用の意味を表す文法形態も異なる⁷。

表3) 引用表現における文法形態

日本語		韓国語	
直接引用	間接引用	直接引用	間接引用
名詞＋と	名詞＋と	名詞＋라고/이라고	名詞＋라고/이라고
動詞・形容詞＋と	動詞・形容詞＋と	動詞・形容詞＋라고	動詞・形容詞＋고

3. 助詞「も」について

3.1 「も」の意味

日本語の助詞「も」は2つの意味に分類することができる。

例3)

- ①저도 2번 거기에 갔어요. : 私も 2回そこに行きました。
 ②저는 2번이나 거기에 갔어요. : 私は2回もそこに行きました。

例3の①と②は、両方とも日本語の助詞「も」に対する韓国語の文法である。韓国語のテキストや教育では①の「도」(名詞の後に付け、その名詞を付け加える・追加する意味で使う)が主に説明される文法形態である。半面、②の「나/이나」⁸については説明があまりなされていない。しかも、韓国語テキストに助詞「も」が「나/이나」として記述(頻度を表す単語の後ろに来て、「せめて～以上も」という意味を表す)があっても、「도」と一緒に説明があったり、使い分ける上で注意を促したりするような説明はあまり書かれていない。また、「나/이나」の

説明があっても、特殊な使い分け方（例外・応用等）のように、通常の説明では誤用をしてしまう恐れのある場合についても説明がない。

例 4)

- ・私は1回も（一度も）行ったことがありません。
- ⇒저는 1번도 간 적이 없습니다. (○)
- ⇒저는 1번이나 간 적이 없습니다. (×)

例4の助詞「も」は、頻度を表す「1度・1回」の後に付いているため、日本人韓国語学習者は「저는 1번이나 간 적이 없습니다.」と誤用するケースが多い。しかし、「1回も」や「たった一人も（단 1사람도）」など、強調する意味での助詞「も」には韓国語では「도」を使わなければならない。

3.2 助詞「で」+助詞「も」と助詞「を」+助詞「も」と助詞「にーが」+助詞「も」

日本語と韓国語は助詞同士の組み合わせができる言語であり、助詞「も」も以下のように他の助詞と組み合わせることができる。

例 5)

- ①ここでも練習ができます。
- ⇒여기에서도 연습을 할 수 있습니다.

- ②ここにも公園があります。
- ⇒여기에도 공원이 있습니다.

- ③ここよりもあそこの方がもっと暖かいです。
- ⇒여기보다도 저기가 더 따뜻합니다.

- ④ここが好きだとも言えます。
- ⇒여기를 좋아한다고도 할 수 있습니다.

日本語と韓国語は、例5のように助詞「で、に、より、と」等と助詞「も」を組み合わせることができるため、日本人韓国語学習者は両言語における助詞同士の組み合わせについて原則対応するものだと考え、日本語の（直訳の）ように韓国語の助詞同士を組み合わせる。また、韓国語のテキストや教育でも助詞同士の組み合わせ方について説明や練習などが詳しく行われ

韓国語の助詞に関する教育(2)

The Education on Postpositions in Korean Language(2)

権 英 秀

KWON Young-Su

『言語の普遍性と個別性』第14号(2023年3月)

Universality and Individuality in Language. Vol.14 (March 2023)

新潟大学大学院現代社会文化研究科

「言語の普遍性と個別性」プロジェクト

Graduate School of Modern Society and Culture, Niigata University

Project of Universality and Individuality in Language

(別刷)

ていないことも一因になって、日本人韓国語学習者は以下のような誤用をしてしまう。

例6)

①ご飯でも食べに行きましょう。

⇒밥에서도 (or 으로도) 먹으러 갑시다. (×)

②二兎を追う者は一兎をも得ず。

⇒두 마리의 토끼를 쫓는 사람은 한 마리 토끼를도 얻을 수 없다. (×)

権(2022)で助詞「を」と助詞「で」について述べたように、日本語の助詞同士の組み合わせ方は韓国語より制約がないため、韓国語で表す際は、日本語の助詞同士の組み合わせ方は韓国語ではできない場合もあることに注意しなければならない。

例5の①は、「ここで」+「ここも」+「練習ができる」という意味を表すために助詞「で」と助成「も」を組み合わせしており、韓国語も同様に助詞「에서 (で)」と助詞「도 (も)」を組み合わせ「여기에서도 연습을 할 수 있습니다.」と表現ができる。

しかし、例6の①は、例5の①と同じ文法形態をしているものの、助詞「で」と助詞「も」の組み合わせではない。意味上分析しても、「ご飯で」+「ご飯も」+「食べに行きましょう」にならず、「ご飯で」の助詞「で」は「手段・理由・場所」⁹の意味ではなく、他の意味でも解釈ができない。例6の①における「でも」は、さまざまな選択の中で一つの例を挙げる際に使う文法である。即ち、食事のさまざまなメニューの中で（「ご飯を食べる。」、「ラーメンを食べる」など）、「ご飯」という例を挙げながら誘っている。この場合の「でも」は「나/이나」を使い、韓国語では「밥이나 먹으러 갈까요?」と表すことができる。

そして、日本語と韓国語では他動詞の前に助詞「を」が来る。例6の②も他動詞の「得る」の対象「兎」を表すために助詞「を」を使っている。また、強調や追加の意味を表す場合に使う助詞「も」を使うことによって、「兎を得る」+「兎も得る」の意味を組み合わせている。しかし、韓国語では助詞同士を組み合わせた場合に、他動詞の前に来る助詞「を」が推測できる際は助詞「を」を省略する傾向がある(権、2018a)。したがって、日本語の助詞「を」と助詞「も」の組み合わせでは、助詞「も」だけを使って以下のように韓国語で表現することができる。

・二兎を追う者は一兎をも得ず

⇒두 마리 토끼를 쫓는 사람은 한 마리 토끼도 얻을 수 없다.

さらに、権(2022)で考察した日本語と韓国語における助詞「にーが」の使い分けと助詞「も」

の組み合わせ方においても注意しなければならない¹⁰。

例7)

①私は先生に質問します。

②私は先生に会います。

③私は先生になりたいです。

例7の①にある助詞「に」は「相手」の意味を表すため、韓国語では「저는 선생님에게 (한테) 질문합니다.」と表現し、②にある助詞「に」は「対象」の意味を表すため、韓国語では「저는 선생님을 을/를 만납니다.」と表現することができる。しかし、例7の③では、①の助詞「에게, 한테」と②の助詞「을/를」を使わず、将来になりたい職業（先生）を言うため、「相手」や「対象」の意味ではなく、新情報を表す際に用いる助詞「이/가 (가)」¹¹で「저는 선생님이 되고 싶습니다.」と表現することができる。

しかし、例7の③に助詞「も」を組み合わせた場合は以下のような誤用になる場合もある。

・私は先生にもなりたいです。

⇒저는 선생님이도 되고 싶습니다. (×)

例7の③のように「～になる」の助詞「に」は韓国語で助詞「이/가 (가)」で表すため、日本人韓国語学習者は「～にもなる」の場合、助詞「이/가 (가)」と助詞「도 (も)」を組み合わせる韓国語で表現する恐れがある。しかし、日本語で助詞「が」と助詞「も」の組み合わせができないことと同様に、韓国語の助詞「이 (가)」と助詞「도 (も)」の組み合わせはできない。また、例6の②で助詞「を」を省略したように、韓国語の「～이/가 되다 (～になる)」の助詞「이/가」も通常推測される助詞であることから助詞「も」だけで「저는 선생님도 되고 싶습니다.」と表現することができるのである。

4. 助詞「から」について

4.1 「から」の意味

助詞「と」と助詞「も」でも考察したように、日本語の助詞は一つの文法形態が多様な意味を持っており、韓国語で表す上で、日本語の意味・意図・考えなどを把握して、適切な韓国語の文法（形態）を選ばなければならない。

表3のように日本語の助詞「から」も3つの意味¹²に分け、韓国語の文法形態をそれぞれの意味に対応して3つに分類することができる。

表3) 助詞「から」の意味

①出発点・基点 (生き物以外) : 에서	家から学校は遠いです。
②始発・開始 (始まり) : 부터	1時から2時まで授業が始まります。
③出発点・基点 (生き物のみ) : 한테서・에게서	お母さんから電話がありました。

例8)

①家から学校は遠いです。

⇒집에서 학교는 멀어요.

②1時から2時まで授業があります。

⇒1시부터 2시까지 수업이 있습니다.

③お母さんから電話がありました。

⇒엄마한테서 (or 에게서) 전화가 왔어요.

例8の①における助詞「から」は助詞「から」の基本的な意味として生き物以外の出発点・基点を表す。そして、②の場合は一定の範囲 (A から B まで) ¹³の中で始発・開始 (A) などの始まりを表し、③の場合は出発点・基点が生き物であることを表し、①との区別をしている。よって、①～③のようにさまざまな日本語の「から」の意味に対して韓国語で表現する場合はそれぞれの文法形態で使い分けなければならない。

4.2 場所と時間を表す際の「から」

著者が知っている限り、韓国語のテキストや教育では、助詞「から」について「에서 : 場所の基点、부터 : 時間の基点、한테서・에게서 : 人の基点」と説明している。しかし、このような説明では韓国語の助詞「から」を柔軟に活用することができない。

例9)

①頭から足まで全部好きです。

⇒머리에서 발끝까지 다 좋아해요.

②冬から春になりました。

⇒겨울부터 봄이 됐습니다.

例9を日本人韓国語学習者が韓国語で答えると、韓国語のテキストや教育で受けた助詞「か

ら」の説明（「에서：場所の基点、부터：時間の基点、한테서・에게서：人の基点」）を用いて、例9の①で頭は時間の意味ではないため、「頭から：머리에서」と、②で冬は時間の意味を表すため、「冬から：겨울부터」という答えが多いと思う。しかし、例10のように韓国語には既存の助詞「から」の説明と異なった使い方もある。

例10)

①頭から足まで全部好きです。

⇒머리부터 발끝까지 다 좋아해요.

②冬から春になりました。

⇒겨울에서 봄이 왔습니다.

韓国語において、助詞「から」の前に場所を表す単語がある場合は主に出発点や基点を表すために「에서」を使い、時間や順序を表す単語がある場合は主に始発や開始を表すために「부터」を使う。しかし、「AからBまで」の範囲を表す場合は、Aの単語の意味にかかわらず、「에서」と「부터」の両方を使うことができる。例10の①のように「頭」という単語は時間や順序を表す単語ではないが、「頭」から「足」までの範囲を限定し、好きなどころの始まりを表すために「부터」を使っている。また、韓国語のテキストや教育で行われる説明と同様な使い方として「에서」を使うこともできる。

例10の②では、「冬」という単語は時間を表す単語であるものの、韓国人は「에서」を使う場合もある。②の「에서」は、「春」の前の季節は今年の「春夏秋冬」をすべて挙げることができ、「何かの季節から春になる」という変化の中で季節の基点を表すために「冬」に限定する・強調するという意味で使われている。

よって、助詞「から」に対する韓国語のテキストや教育は説明や練習が不十分であり、日本人韓国語学習者が助詞「から」を上手に活用するためには、既存の助詞「から（「에서：場所の基点、부터：時間の基点、한테서・에게서：人の基点」）」に対する説明をより詳しく行うべきである。

5. 助詞「まで」について

日本語と韓国語の助詞「まで」は終点や終了時点を表しており、両言語の意味上の差はあまりない。しかし、日本語では一つの文法形態がさまざまな品詞（動詞、形容詞、形容動詞、名詞等）とも自由に組み合わせることができるという特徴があるように（権2020）、助詞「まで」は他の品詞と組み合わせにおいて両言語の違いが見られる。

例 11)

①今日 5時まで来てください。

[名詞]

②今日私が家に戻るまで必ず来てください。

[動詞]

「まで」は「と、も、から」と違って複数の意味を持っていないため、韓国語で表す際は、「と、も、から」のように日本語の意味に対応する韓国語の文法形態を使い分ける必要はない。ただし、韓国語の「까지 (まで)」は主に名詞または副詞の後に来る文法であることを日本人学習者は注意しなければならない。

例 12)

・今日私が家に戻るまで必ず来てください。

(動詞+まで)

: 오늘 제가 집에 돌아오까지 꼭 오세요. (×)

오늘 제가 집에 돌아오다까지 꼭 오세요. (×)

⇒今日私が家に戻る時まで必ず来てください。

(動詞+名詞+まで)

: 오늘 제가 집에 돌아올 때까지 꼭 오세요. (○)

日本語では助詞「まで」はさまざまな品詞との組み合わせ方に制約がないため、動詞とも組み合わせることができるものの、韓国語の場合はさまざまな品詞との組み合わせ方に制約があり、「まで」を表すためには「まで」の前の品詞（特に動詞の場合）を名詞化しなければならない。したがって、例 12 の場合は「戻るまで」は「戻る時まで」という意味であるため、「まで」の前に「時」という名詞を入れることによって、「まで」が名詞の後に来るという制約¹⁴に従って韓国語を書くことができる。

3.2 で考察したように、韓国語で助詞同士を組み合わせる際は推測される助詞を省略する傾向がある。時間を表す助詞「에 (に)」と、限定・制限する際に使う助詞「까지 (まで)」を組み合わせる場合も助詞「까지 (まで)」だけで韓国語を表現することができる。

・明日 10 時までに来てください。

⇒내일 10 시까지에 와 주세요. (×)

明日 + 10時 + <u>まで</u> + 来る	+ てください = 明日 10時 <u>まで</u> <u>に</u> 来て ください
10時 + <u>に</u> + 来る	(通常 <small>の</small> 助詞)

「明日 10 時に来る」という表現に、24 時間の中で「10 時まで」という時間指定の意味を加えて依頼した表現であるため、韓国語で時間を表す時に使う助詞「に」は省略し、助詞「まで」だけを用いて「내일 10 시 까지 와 주세요.」と表すことができる。

6. 助詞「より」について

日本語の助詞「より」は比較する際に基準を表す助詞であり、韓国語にも同じ意味を持つ「보다」がある。両言語の助詞「より」は意味も近く、活用法も似ている。しかし、文法形態「より」と「보다」は比較する際に基準を表す助詞の意味以外に、副詞の意味を持っているため、以下のような誤用をしてしまう。

例 13)

①昨日 より 今日の方がもっと寒いです。

⇒어제 보다 오늘이 더 춥습니다. (○)

⇒어제 보다 오늘이 더 춥습니다. (×)

②彼は より よい暮らしのために頑張りました。

⇒그는 보다 좋은 삶을 위해서 열심히 일했습니다. (×)

⇒그는 보다 좋은 삶을 위해서 열심히 일했습니다. (○)

「より」と「보다」は両方とも「助詞の意味」と「副詞の意味」を持っており、日本語と韓国語が対応関係にあるため、韓国語のテキストや教育であまり詳しく扱われない文法の一つである。しかし、「より」と「보다」を活用する際は、韓国語の「分かち書き」という書き方に注意しなければならない。

平仮名だけの「よくできないようだ」という表現は、褒め言葉として解釈でき、批判の意味でも解釈できる。なぜなら、平仮名だけでは意味が曖昧になり、同音異義語になる場合があるからである。そのため、日本語では漢字を使って曖昧さを回避し、同音異義語の区別をしている（「欲で汚いようだ」・「よくできた内容だ」）。しかし、韓国語は通常ハングルで表記しており、同音異義語の区別をするために意味ごとに「分かち書き」をしている。

韓国語の「分かち書き」とは名詞・動詞・形容詞・副詞のような意味を持っている品詞に補助的な意味を持つ文法（形態）を最小限の単位として組み合わせて書くことである。したがっ

て、例 13 の①で「より」は寒さを比較する基準（「昨日」）を表すための助詞であり、名詞である「昨日」と組み合わせて書かなければならない。しかし、②における「より」は「よい（暮らし）」を修飾するための副詞であり、韓国語では「分がち書き」をしなければならない。

7. 助詞「の」について

7.1 「の」の意味

助詞「の」は名詞と名詞を繋ぎ、所有や所在を表す場合に使う文法（形態）であり、韓国語では「의」と対応している。しかし、韓国語では文法形態の「의」以外に、助詞「の」を表すもう一つの方法がある。

例 14)

①今日は誰の誕生日ですか。

⇒a. 오늘은 누구의 생일입니까? (○)

⇒b. 오늘은 누구 생일입니까? (○)

②私の誕生日です。

⇒a. 저의 생일입니다. (○¹⁵)

⇒b. 저 생일입니다. (×)

日本語の助詞「の」と韓国語の助詞「의」の対応関係¹⁶によって、日本人韓国語学習者は例 14 で日本語の①と②に対する韓国語に a のような答えを書く場合が多い。しかし、韓国語テキストにある本文やスキットなどには①の b のような書き方も多く、韓国人も普段は①の b のように助詞「의」を省略する表現も多く使う。

助詞「の」は名詞と名詞を繋ぎ、所有や所在を表す場合に使う文法である。韓国人は助詞「の」において、所有や所在を表さなくてよい場合や強調しなくてもよい場合、即ち、単に名詞と名詞を繋ぐ際は助詞「의」を書かない傾向がある。

表 4) 意図による助詞「의」の書き方

・名詞と名詞を繋ぐ	⇒	⇒	⇒	・所有や所在を表す ・所有や所在を強調する
助詞「의」省略				助詞「의」を書く

例 14 の①における韓国語 a と b は両方とも正しい表現である。ただし、a の場合は誕生日、面接日、試験日など、さまざまな行事やイベントの中で、誕生日である人（「誰」）を強調する

ニュアンスがあり、b では a のようなニュアンスはなく、単に「誰」と「誕生日」の名詞同士を繋いだだけである。

このように日本語の助詞「の」に対応する韓国語は意図や考え¹⁷によって助詞「의」を用いたり、省略したりすることができるが、例 14 の②における b では、助詞「의」を省略することができず¹⁸、韓国語テキストではあまり注意されない点である。

例 15)

①A : 서울로 가는 버스는 어느 것입니까? (ソウルに行くバスはどれですか。)

B : 저 버스입니다. (あのバスです。)

②A : 이것은 누구의 책입니까? (これは誰の本ですか。)

B : 저의 책이에요. ¹⁹ (私の本です。)

韓国語では 1 人称の場合、必ず助詞「의」を用いて表現しなければならない。韓国語の「저」という単語は、例 15 の①にある指示代名詞「저 (あの)」と、②にある「저 (私)」の同音異義語の関係²⁰にあるため、助詞「의」を省略すると、指示代名詞「あの」と「私」の意味が曖昧になってしまう²¹。したがって、一人称である「저」²²の場合は助詞「의」を省略してはならない。

7.2 代替助詞「の」

中級レベル以上の日本人韓国語学習者も助詞「の」の活用において例 16 の②のように誤用する場合が多い。

例 16)

①私の好きな食べ物はアイスクリームです。

⇒저의 좋아하는 것은 아이스크림입니다. (×)

②昨日のパンはどこにありますか。

⇒어제 빵은 어디에 있습니까? (×)

7.1 で述べた韓国語の助詞「の」の説明を理解していても、例 16 を韓国語で表すことは難しい。なぜなら、日本語の助詞「の」は名詞と名詞を繋ぎ、所有や所在を表すために使い、例 16 のように他の助詞や表現の代わりに使う場合もあるからである。即ち、日本語では代替助詞としての働きがあるのである。また、この点は韓国語の助詞「의」の働きとしてあまり発達して

いないため、日本人韓国語学習者に教育が必要である。

例 16 の①で、「私の好きな食べ物」は本来なら「私が好きな食べ物」を意味する。そのため、韓国語では以下のように表現しなければならない。

・私の好きな食べ物はアイスクリームです。

↓ = 「私が好きだ」 + (な) + 「食べ物はアイスクリームだ」

⇒私が好きな食べ物はアイスクリームです。

: 제가 좋아하는 것은 아이스크림입니다.

そして、韓国人は人との付き合いにおいて、情 (정 [ジョン])²³を持って嘘なく本音で付き合うことが美德とされているため、誤解が起きないように物事を「はっきりと・直接的に・詳しく」言う傾向がある。半面、日本人は物事をはっきりと言わないことが美德であり文化であるため、日本人は「間接的に」物事を言いまわす傾向がある (権、2017)。このような日本人と韓国人のコミュニケーション・スタイルの相違が見られるのが例 16 の②である。②の「昨日のパン」は「昨日買ったパン」、「昨日作ったパン」、「昨日もらったパン」など、さまざまな意味で解釈ができ、日本語では助詞「の」によって間接的に言いまわしている。しかし、韓国語の場合は話す人の意図をしっかりと伝えなければならないため、以下のように表現することができる。

・昨日のパンはどこにありますか。

↓

「昨日買ったパン」の意図 ⇒ 어제 산 빵은 어디에 있습니까?

「昨日作ったパン」の意図 ⇒ 어제 만든 빵은 어디에 있습니까?

「昨日もらったパン」の意図 ⇒ 어제 받은 빵은 어디에 있습니까?

8. まとめ

韓国語のテキストや教育では、日本語と韓国語の文法が対応しているものだけを中心に説明および練習が行われている。しかし、本来両言語は異なる言語であるため、文法同士を対応させることは難しいが、意味が似ている・似ている場面で使えそうな文法を対応させて日本人韓国語学習者に韓国語の教育を行っていることが現状である。そのため、日本人韓国語学習者学習者は両言語が対応しており、習った文法だけで日本語を韓国語で表現できると考えがちである。

筆者 (2018b、2020) の研究結果のように、日本語と韓国語の文法対応ができず、異なる点も多々あることが分かった。しかし、この点について現在韓国語のテキストや教育では説明や練

習があまり行われていないため、韓国語の学習経験が豊富な学習者を除き、日本人韓国語学習者は習った文法の活用を間違えたり、韓国語の表現を多く誤用したりしている。

本研究は、韓国語のテキストや教育において説明や練習をあまり行わない内容を取り上げて日本語と韓国語の助詞「は、が、を、で、に」の先行研究に基づき、助詞「と、も、から、まで、より、の」についても考察しており、本研究で取り上げた内容は、日本人韓国語学習者（特に初級レベルの学習者）が上手に活用できないものであり、日本語と韓国語の異なる使い分け・使い方であるため、初級レベルのテキストや教育において説明と練習が要される内容でもある。

したがって、両言語において対応する文法だけを説明し練習する既存の韓国語の教育法をもう一度整理し、（特に初級レベルの）日本人韓国語学習者が、多くの韓国語の学習経験が無くても、1つの文法を学ぶことでその文法の活用（応用）ができるように、より丁寧に詳しく説明と練習ができる韓国語のテキスト制作や教育が行われるべきだと考える。

¹ 新潟大学の2010年～2022年の1年生を対象にしたものであり、本文の日本人韓国語学習者である。

² 他に「저하고, 자랑」を表すこともできる。

³ 反対に韓国語で一つの文法形態がさまざまな意味を持つ場合もある。しかし、そのような文法は日本語より少ない。

⁴ 意味上や使い方において一致しているものもあるが、全体的に比べると少ない。

⁵ 前後の文脈などによって、適切な文法形態を使う。

⁶ 名詞・動詞・形容詞など。

⁷ さらに、韓国語の間接引用の場合は必ず「基本形の口体」のみが引用の文法形態と組合すことができる。

⁸ 韓国語の「나/이/나」はよく助詞「か、や」など、何かの選択を表す「選択列挙」助詞として説明される。

⁹ 場所の意味：で+も = 에서도、手段・理由の意味：で+も = 로도/으로도

¹⁰ 他にも「～にも乗る」、「～にも会う」など、助詞「に-を」と助詞「も」の組み合わせに注意しなければならない。助詞「に-を」については権（2022）を参照されたい。

¹¹ 権（2022）の助詞「が」を参照されたい。

¹² 接続語尾「から」の意味もある。また、日本人韓国語学習者の韓国語で接続語尾「から」と表3の「から」の使い分けに誤用が見られなかったので、接続語尾「から」の説明は省略する。

¹³ ただし、「AからBまで」の範囲を表す際は「A에서 B까지」も多く使われる。詳しくは4.2を参照されたい。

¹⁴ 他に韓国語の助詞「が、と、に、まで、で、や、より等」がある。

¹⁵ 「저의」の縮約形＝「제」：제 생일입니다. (○)

¹⁶ 韓国語のテキストや教育で主に説明される対応関係である。

¹⁷ 他に、話し手のイントネーションや文脈、雰囲気、リズムなどによる場合もある。

¹⁸ 会話では、イントネーションや文脈、雰囲気、リズムなどによって、省略する場合もある。

¹⁹ 「저의」の縮約形＝「제」：제 책임입니다. (○)

²⁰ 他に意味上の理由もある。

²¹ 文脈によって指示代名詞「あの」と「私」の区別ができるため、会話では「私」という1人称も省略する場合がある。しかし、通常会話と文章では省略しない。

²² 他に1人称の「나（私、俺）」も表現によって意味が曖昧になるため、助詞「의」の省略はできない。

²³ 최 (1992) は韓国人は「情 (정)」をもっとも重んじる集団であり、情に反するような行為に弱い一面を持っていると述べている。

参考文献

- 権 英秀 (2017) 『言語と文化の相関関係—韓国語と日本語を比較しながら—』『ことばとくらし』第 29 号 新潟県ことばの会 pp. 左 11-24.
- (2018a) 「韓国語の統語的アプローチ」『言語文化研究』第 22 号、新潟大学 pp. 11-24.
- (2018b) 「韓国語教育の問題点と提案—テキストと授業について—」『ことばとくらし』第 30 号 新潟県ことばの会 pp. 左 30-43.
- (2020) 『韓国語教育における日本語の文法について—国語ではない外国語の観点から—』『言語の普遍性と個別性』第 11 号 新潟大学 pp. 15-31.
- (2022) 『韓国語の助詞に関する教育 (1)』『言語の普遍性と個別性』第 13 号 新潟大学 pp. 99-116.
- 고영근・구분관 (2014) 『우리말 문법론』 집문당.
- 남기심・고영근 (2014) 『표준국어문법론』 박이정.
- 최 상진 (1992) 「한국인의 문화—심리적自己」『중대논문』 35 중앙대학교 pp. 203-223.

辞典

- 『現代言語学辞典』(1988) 田中春美他 (編) 成美堂.
- 『朝鮮語大辞典』(1985) 大阪外国語大学朝鮮語研究室 (編) 角川書店.
- 『日本語教育辞典』(1983) 日本語教育学会編 大修館書店.

テキスト

- 『改訂版韓国語レッスン初級 I』(2003) 金東漢・張銀英 (著) スリーエーネットワーク.
- 『韓国語講座 1』(2009) 金東順 (著) 白帝社.
- 『韓国語の文法バイブル』(2015) 権英秀 (著) .
- 『韓国語の文法講義ノート上・下』(2015) 権英秀 (著) .
- 『基礎から学ぶ韓国語講座初級』(2005) 木内 明 (著) 国書刊行会.
- 『新好きやねんハングル I』(2009) 高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク西ブロック編集チーム (著) 白帝社.
- 『総合韓国語 1』(2001) 油谷幸利・南相璵 (著) 白帝社.
- 『朝鮮語を学ぼう』(2003) 朝鮮語学研究会 (著) 三修社.
- 『日本人のためのはじめての韓国語』(2008) 玄充鍋 (著) 白帝社.
- 『ミニマム韓国語』(2006) 高秀賢 (著) 国書刊行会.
- 『みんなの韓国語 1』(2009) 吉本一・中島仁・石賢敬・曹喜徹 (著) 白帝社.
- 『やさしく学べる韓国語初級』(2009) 金三順・北村唯司 (著) 白帝社.
- 『아름다운 한국어 1-3』(2005) 안성희 (著) 한국어교육개발연구원.